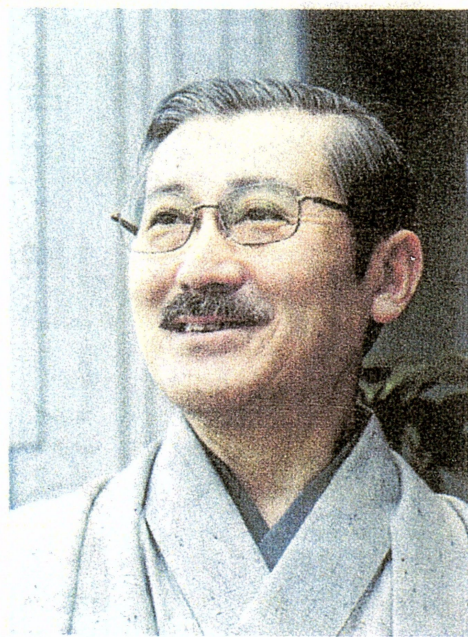




古美術鑑定家
エッセイスト

中島誠之助

現在の英国人気質を知る

<なかじま・せいのすけ>
昭和13年生まれ。東京・青山の骨董通りの名付け親。著書に『ホンモノの人生』『やきもの鑑定五十年』ほか。

英国太平記 セントアンドリュースの歌



小林正典 著

(早川書房・1995円)

書評 倶楽部

は文中の一員となつて快哉を叫び大願成就の後の軽い疲れを感じていたのだ。

久しぶりに読書に嵌った。電車に乗っているときもエスカレーターで運ばれているときにもページを開いていた。

巻末近く1314年のバノックバーンの戦いでスコットランド軍がイングランド軍を破った場面には、私は

私たちは日本人にとつての英国中世史はシェークスピアのマクベスやリア王に代表されるイギリス演劇によるところ

が大きい。ところがそれらの筋書きの伏線となつて12世紀のイングランド、スコットランド、ウェールズの葛藤に關しては知識の外であると、いつても過言ではない。

イングランド王に奪われたスコットランド王家の象徴である神聖な「運命の石」が、700年後の1996年になつて返還された事実を知る日本人は少ない。映画「ハリー

・ポッター」シリーズで映し出される美しい湖水地方に、両王家による凄惨な殺戮の舞台が用意され、ネス湖をとりまく森にグリラ戦の基地が築かれたことを知る人はいない。

ひそかに贈られたコインと拍車がロバートに危険を報せる。ロバートはやがてスコットランドの王となつていく人物だ。このくだりは織田信長に窮地を報せたお市の方の小豆袋に比していい。

荒野を一人さまようロバートは貧しい農婦に食物を恵まれる。洞窟で絶望に横たわるロバートは懸命に糸を張る蜘蛛の努力する姿に勇気を与えられるのだった。

著者は英国に赴任した営業マンで駐在時より20年来の構想を、会社生活の卒業とともに実現したのが本書である。日本で太平記が表された頃、時を同じくして、英国の貴族たちが死力を尽くして闘った物語は、ただ単に歴史を知るといふことよりも、現在の英国人気質を知るうえで大きな意義があるといえよう。